

月刊びゃっきープレス

2010

4 月号

毎月初回ライブ日発行

発行 (謝)びゃっきーライブ連盟
http://www.satram.jp/byacky/
byacky@satram.jp

配布 びゃっきーご本人かライブハウスの人

無料配布

↑あたりまえ

イベント予定

2010 年 5 月 28 日(金)

ゆーじ×びゃっきー

共同企画「シンプル」

@阿佐ヶ谷 Next Sunday

お待ちしております

問合せ : byacky@satram.jp

byacky press

恐怖

巨大クレーン

倒れるかもしれない

最近勤め先の近くで高層マンションの工事が行われていて、日々クレーンを使った作業が行われている。現場を通りがかるたびに、びゃっきーは恐怖を感じながら、クレーンを見上げる日々を送っている。みなさんに日々安全な暮らしをご提供するために、日夜努力しているびゃっきープレスとしては、普段何気なく工事現場のクレーンの横を通り過ぎていく方々に、いかにクレーンが危険であるか、注意を喚起するべく、ここにクレーンの恐怖をお伝えする。括目せよ。

逃げる心積り完了 危険を感じる

びゃっきーはどちらかと言えば、高所恐怖症だと思う。高いところだとそれなりに恐怖を感じるし、筋肉もこわばる。三半規管が弱く、すぐふらつくので、そんなところも、高所を忌避する要因かもしれない。

そんなびゃっきーだが、高所だけではなく、高所を下から見上げるのも苦手である。新宿などの高層ビル街を、上を向いて歩くとき恐怖を感じる。これは高所恐怖症というよりは、巨大建造物に対する畏怖の念が強いと思う。何か圧倒的なものを前にした虫けらの気分である。人類はなんというものを作ってしまったんだろうか。現代のバベルの塔である。神の逆鱗に触れて、言語をさらに細分化されないとうい。

そんな巨大建造物を作成するのに必要となるのがクレーンである。これ自体も高くて巨大なので、十分畏怖の対象であるが、さらに恐怖なのが、落下物の恐怖と、転倒の恐怖である。クレーンは常に危険と隣り合わせで

ある。

まず、落下物の恐怖について。これは山岳における「ライク」というヤツである。最近山岳マンガを読む機会があるので、ちよつと知ったかぶつてみた。それはいいとして、クレーンが吊り上げている鉄骨などが、急にバランスを崩して落つちよつてきたらどうしようと思うのである。ポルトやナットでも十分な破壊力である。巨大クレーンは遙か上空に運転場所がある。そこを上がった人が、ポケットに入れていたアメが落ちてくるでも危険である。

次に転倒の恐怖。最近クレーン転倒のニュースをよく見

る。家がまっぶたつた途端に、たまたまたた途端に轢かれそうなのから助かったとかいうニュースもあつた。これは巨大クレーンよりも、クレーンの方が転倒の危険が多いようである。車の両側に支えを出して、クレーン作業をするのだが、足場の傾斜や、取り扱うもの、クレーンの角度などによつて、転倒してしまうことがあるらしい。

そこで、クレーンの近くを通るときは、頭上に注意して足早に通るべきことになっている。何か落ちてきたら、クレーンが倒れてきたら、急に逃げられるように常に準備をしているのである。

というような話を妻にしたら、「走り出した途端に轢かれそうなの意味だが、もつともな意見でもある。それは危険だ。言われてみれば、クレーンを避けるあまり、歩道から大きく車道へはみ出して、歩いたりする。落下物の恐怖と、転倒の恐怖のほかに、二次的な災害として、車に轢かれる恐怖というのでも足しておこう。

このようにクレーンはとても危険である。みなさんもクレーン現場近くを通るときは、3つの危険を心にとめて慎重に行動してほしい。(びゃっきー)

これは一体なに？



先日、JR 埼京線内で見かけたもの。網棚の上に箱が乗っている。ペット運搬用、機密文書輸送用など、用途を考えてみたが、簡単に開閉できそうもないため、ペットなどを入れるのは不便。機密文書を入れるにはほっておかれっぱなしで、それはそれで無用心。というか埼京線で機密文書を運ぶな。とすると、何か列車の設備なのかもしれないが、これは何？